

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

何度読んでもおもしろく、読めば読むほどおもしろさのしみ出て来るものは夏目先生の「修善寺日記」と子規の「仰臥漫録」とである。いかなる戯曲や小説にも 到底見いだされないおもしろみがある。なぜこれほどおもしろいのかよくわからないが、ただどちらもあらゆる創作の中で最も作為の跡の少ないものであって、こだわりのない叙述の奥に隠れた **I** があらゆる批判や評価を超越して直接に人を動かすのではないかと思う。そしてそれは死生の境に出入する大患と、なんらかの点において非凡な人間との **II** によってのみ始めて生じうる文辞の宝玉であるからであろう。

岩波文庫の「仰臥漫録」を夏服のかくしに入れてある。電車の中でも時々読む。腰かけられない時は立ったままで読む。これを読んでいると暑さを忘れ距離を忘れる事ができる。

「朝 ヌク飯三ツン 佃煮 梅干 牛乳一合ココア入り 菓子パン 塩センベイ……」

こういう記事が毎日毎日繰り返される。それが少しもむだにもうるさくも感ぜられない。読んでいる自分はそのたびごとに一つ一つの新しき朝を体験し、ヌク飯のヌクミとその香を実感する。そして著者とともに貴重な残り少ない生の一日一日を迎えるのである。④牛乳一合がココア入りであるか紅茶入りであるかが重大な問題である。それは政友会が内閣をとるか憲政会が内閣をとるかよりははるかに重大な問題である。

昼飯に食った「サシミノ残り」を晩飯に食ったという記事がしばしば繰り返されている。この残りの刺身の幾片かのイメージがこの詩人の午後の半日の **III** の上に投げた影はわれわれがその文字の表面から軽々に読過するほどに希薄なものではなく、卑近なものでもなかったであろう。

この病詩人を慰めるためにいろいろのものを贈って来ていた人々の心持ちの中にもさまざまな複雑な心理が読み取られる。頭の鋭い子規はそれに無感覚ではなかったろう。しかし子規は習慣の力でいろいろの人からいろいろのものをもらうのをあたかも当然の権利でもあるかのようにきわめて事務的に記載している。⑤この事務的散文的記事の紙背には涙がある。

頭が変になって「サアタマランサアタマラン」「ドーショウドーショウ」と連呼し始めるところがある。あれを読むと自分は妙に滑稽を感じる。絶体絶命の苦悶でついに自殺を思うまでに立ち至る記事が何ゆえにおかしいのか不思議である。「マグロノサシミ」に悲劇を感じる私はこの自殺の一幕に一種の喜劇を感得する。しかし、もしかするとその場合の◎子規の絶叫はやはりある意味での「笑い」ではなかったか。これを演出しこれを書いたあとの子規はおそらく最も晴れ晴れとした心持ちを味わったのではないか。

夏目先生の「修善寺日記」には生まれ返った喜びと同時にほのかな彼方の世界への憧憬が強く印せられていて、それはあの日記の中に珠玉のごとくちりばめられた俳句と漢詩の中に凝結している。子規の「仰臥漫録」には免れ難い死に直面したあの子規の此方の世界に対する執着が生々しいリアルな姿で表現されている。そしてその表現の効果の最も強烈なものは毎日の三度の食事と間食とのこくめいな記録である。「仰臥漫録」から「ヌク飯」や「菓子パン」や「マグロノサシミ」やいろいろの、さも楽しそうに並べしるしたごちそうを除去して考えることは不可能である。

「仰臥漫録」の中の日々の献立表は、この命がけで書き残された稀有の美しい一大詩編の各章ごとに規則正しく繰り返されるリフレインでありトニカでなければならぬ。

(注) 估価……………ねだん

トニカ……………主調音

問一 I III にあてはまるものを、次のなかからそれぞれ一つずつ選び記号で答えなさい。

- | | | | | |
|-----|----------|----------|----------|----------|
| I | ア 深刻なもの | イ 悲痛なもの | ウ 高貴なもの | エ 純真なもの |
| II | ア 運命的な対立 | イ 偶然的な結合 | ウ 宗教的な因縁 | エ 必然的な背反 |
| III | ア 療養生活 | イ 日常生活 | ウ 精神生活 | エ 経済生活 |

問二 傍線部①「牛乳一合がココア入りであるか紅茶入りであるかが重大な問題である」とあるが、子規にとってそれがなぜ「重大な問題」であるのか、三十文字以内で答えなさい。(句読点を含む)

問三 傍線部②「この事務的散文的記事の紙背には涙がある」とあるが、その「涙」には子規のどのような気持がこめられているか。次のなかから適切なものを一つ選び記号で答えなさい。

ア 贈物にかくされたひとびとのさまざまないやしい心理を感じとって、あまりに打算的な世の中を嘆かわしく思う気持。

イ ひとびとが贈ってくれるいろいろな珍しいものを受けとりながら、自分の死が近いことを感じとって寂しく思う気持。

ウ たとえどのような心持ちからであれ、病苦に悩んでいる自分をなぐさめてくれるひとびとに対し、ひそかに感謝している気持。

エ 真心をこめた贈物でも、当然の権利のように受けとる習慣が身につけてしまっている自分を恥しく思う気持。

問四 傍線部③「子規の絶叫はやはりある意味での『笑い』ではなかったか」とあるが、子規の絶叫がなぜある意味での「笑い」であったと考えられるのか。次のなかから適切なものを一つ選び記号で答えなさい。

ア 「サアタマラン」と叫ぶ絶叫がカタカナで表記されているということが、幼児の泣き声めいて読まれるから。

イ 苦悶のはてに自殺を思うということが、あまりにも直情的であるとともに大げさすぎておかしく受けとれるから。

ウ 刺身の残りの記事に悲劇性が見られるということが、かえって自殺の思いを喜劇的なものに感じさせるから。

エ 絶叫がはればれとした心持ちを味わわせたということが、笑いのもつ効用と同じであると思われるから。

問五 筆者は「修善寺日記」と対比させて、「仰臥漫録」に子規の何を読みとっているか、五字以内で答えなさい。

問六 漱石と子規の二人に共通して関係あるものを、ア～クの中から二つ選び記号で答えなさい。

- | | | | | | | | |
|---|-----|---|-------|---|------|---|------|
| ア | 余裕派 | イ | 四国松山 | ウ | アララギ | エ | 写生 |
| オ | 日本派 | カ | ホトトギス | キ | 外遊 | ク | 九州熊本 |

二 次の傍線部のカタカナを漢字に漢字をひらがなに直しなさい。

- | | | | | | |
|---|-----------|---|----------|---|-----------|
| ① | 参加をジシユクする | ② | ヘンキョウな考え | ③ | テキギ休憩をとる |
| ④ | 美をキョウジュする | ⑤ | ルイシンを務める | ⑥ | キキョウな振る舞い |
| ⑦ | ケンシを取る | ⑧ | ジンリンに反する | ⑨ | シヤクイを授ける |
| ⑩ | カッタンを生産する | ⑪ | オウハン印刷 | ⑫ | ソンスウの念を抱く |
| ⑬ | 貞操観念がない | ⑭ | 醜態をさらけ出す | ⑮ | 教唆扇動する |
| ⑯ | 新参者に軽侮する | ⑰ | 悼辞を読む | | |